

私立 聖隷クリストファー大学

取組名称 保健医療福祉専門職を志す学生の就職支援—地域拠点づくりを軸に

取組担当者 就職センター 統括センター長 藤田 正人

1. 本学の概要

聖隷学園における教育の歴史は1949(昭和24)年、聖隷の創設者である長谷川保らの「戦後日本の再建は教育による青年の精神復興による他なし」という考えにより、現在の地に開設された遠州基督学園に遡る。

遠州基督学園はその後、国による看護教育制度の発足に伴い、1952(昭和27)年に准看護婦養成所となり、聖隷学園の看護教育の第一歩を踏み出した。この准看護婦養成所に始まる本学園の看護教育は、1969(昭和44)年の聖隷学園浜松衛生短期大学による看護婦養成、1980(昭和55)年の専攻科助産学特別専攻設置による助産婦の養成へと発展し、これら40年余りにわたる教育の実績が、現在の聖隷クリストファー大学へと引き継がれている。

本学は1992(平成4)年に聖隷クリストファー看護大学として開学し、2002(平成14)年には社会福祉学部を増設して、大学名を聖隷クリストファー大学に変更した。さらに、2004(平成16)年にはリハビリテーション学部を増設し、保健医療福祉の総合大学へと発展した。

これら保健医療福祉の大学院教育として、1998(平成10)年に大学院看護学研究科修士課程、2004(平成16)年に大学院社会福祉学研究科修士課程、2006(平成18)年に大学院リハビリテーション科学研究科修士課程、さらに3つの修士課程を総合した大学院博士後期課程保健科学研究科を2008(平成20)年4月に開設した。また、短期大学で行われてきた助産師教育は2007(平成19)年4月開設の大学の助産学専攻科に引き継がれている。2009(平成21)年5月1日現在の学生数は、1,450名である。

本学は、建学の精神としてきたキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づき、豊かな人間性と倫理観を涵養するとともに、看護、リハビリテーション、福祉の高度な専門知識や技術を教授、研究し、それらに基づいた実践力と保健医療福祉の連携を推進できる力を身につけた専門職業人の育成を図ることを教育理念としており、学則第1条には「本学は、キリス

ト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶するとともに、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の看護、リハビリテーション及び福祉の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉に寄与することを目的とする。」と明記している。

2. 本取組の概要

本学は地域の保健医療福祉の質の向上に貢献できる優れた専門職者を育成し、地域の人々、特に身体やこころ、その他の理由で日々の生活が困難な状況にある人々に寄り添い、支えるという理念のもと、多くの専門職者を輩出し、特に静岡県内の保健医療福祉施設において多くの卒業生が活躍している。こうした中、静岡県内の保健医療福祉施設との連携強化を図り卒業生とのつながりを育て、需給状況の変化に左右されない就職拠点のネットワークを築くことに力を注いでいる。

具体的には在学生、卒業生、保健医療福祉施設の採用担当者と大学教職員とが交流できるプログラムとして、「地域で活躍する専門職の講演会」や「卒業生との懇談会」等の就職支援プログラムや、「地域の保健医療福祉施設の施設長や採用担当者との情報交換会」等を実施している。

こうした取組を通して、専門職としてのキャリアデザインについて考える機会を学生に与え、学生自身の専門職としての将来像が一層明確になるよう働きかけ、学生の希望する就職が確実に実現するよう支援している。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

静岡県内の保健医療福祉施設との連携強化を図り、卒業生とのつながりを育て、大学を就職拠点としたネットワークを築くことにより、保健医療福祉の専門職を志す学生の希望する就職が確実に実現する就職支援を行う。また、正課外における専門職としてのキャリア形成支援と就職支援の充実を図る。

(2) 達成目標

学生自身の専門職としての将来像のイメージ作りと就職に対する意識を向上させることを目標とする。また、保健医療福祉分野への就職希望者に対する就職内定率90%以上及び国家試験合格率の全国平均以上を継続して達成することを数値目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

「地域で活躍する専門職の講演会」や「卒業生との懇談会」を開催し、学習の中で抱えている専門職としての自身の将来像が一層明確になるよう働きかける。また、「地域の保健医療福祉施設の採用担当者と本学教職員との情報交換会」や「卒業生を対象としたホームカミングデー」等を開催する。さらに、「求人情報検索システムの導入」や「求人説明会の学内開催」等就職支援の充実を図る。

(i) 地域で活躍する専門職の講演会

低学年から専門職としてのキャリア形成を図ることを目的に、「専門職者による就職講演会」を行う。

学生の就職に対する意識の向上、学生への進路選択支援、職業意識向上、専門職としてキャリアアップすることの意義を学ぶことを目的に、保健医療福祉施設の専門職者の仕事を紹介する。専門職として働く上でどのようなことを大切にしているのか、学生の時に考えていた現場と実際の現場との比較等について話を聞き、より現実的に専門職の職場を考える機会とする。専門職ごとに対象学生が異なることから学部単位で行う。

(ii) 卒業生との懇談会

就職活動を開始する3年次生を対象にして将来目標の確立、大卒で自分の進路を決めることを目標としている。学生が様々な進路(就職)について具体的なイメージを持ち、行動へと踏み出せるよう、実際に保健医療福祉施設で活躍している本学卒業生に話を聞く。

看護学部は、病院、施設、地域の現場で活躍中の卒業生から直接話を聞き、看護領域ごとの特徴、仕事内容、求められる資質等について理解し、進路に対する具体的なイメージを深める。

社会福祉学部は、福祉専門職としての仕事かどのようなものか、学生時代にどんなことを学ぶべきか、何をしておくべきか先輩の話を聞く。また、先輩がどのような就職活動をしたのか、また実際に働いてみての様子等、就職活動を始めるにあたり不安や心配に感じていることについて情報をもらう。

リハビリテーション学部は、卒業生を出してまだ2

年ということから「地域で活躍する専門職の講演会」と兼ねて「卒業生との懇談会」を行っている。



写真1 全体会



写真2 個別相談

(iii) 地域の保健医療福祉施設の採用担当者と本学教職員との情報交換会

就職実績の多い保健医療福祉施設の採用担当者を大学に招き、大学への理解を深めてもらう。学部、大学院で行っている教育、就職支援の考え方、学生の状況について大学側が説明をし、採用担当者からは、本学卒業生の状況や求人者の状況等の情報をもらい情報を交換する。また、保健医療福祉施設の現場で求められている能力について聞き、教育課程、授業、実習等にフィードバックする。就職実績の多い保健医療福祉施設が学部ごとに異なることから学部単位で行う。

(iv) 卒業生を対象としたホームカミングデー

ホームカミングデーは、仕事や研究・研修の拠り所として、また保健医療福祉の最新情報や人材情報の交換拠点として母校を活用してもらうよう本学の現在を伝える機会、同窓生、先輩・後輩と旧交を温め教職員と交流する機会としている。

プログラムは、同窓生、あるいは先輩・後輩がお互いを知ること、保健医療福祉の専門職連携を考えること、専門職同士の交流をすることができるように工夫をしている。ホームカミングデーを通して教員と卒業生、卒業生同士のネットワークが広がり、助け合い、刺激し合い、お互いに研鑽することによって地域の保健医療福祉の質が向上することを期待している。また、教員は、卒業生から保健医療福祉の現場の情報を直接得ることができる。

(v) 求人情報検索システムの導入

学生への求人情報の提供をインターネットで行う。これにより学生は学外からもシステムを利用することができ、実習中でも時間と場所の制約なく求人情報を得ることができる。また、保健医療福祉施設からの求人票の受付もインターネットで行うことができることから職員の人票の入力作業が軽減される。

(vi) 求人説明会の学内開催

保健医療福祉施設の採用担当者から直接情報を収集することにより、学生の就職活動への動機付けと応募先検討の機会とする。また、学生の確実な就職を実現するために参加した保健医療福祉施設との関係を強化

することも目的としている。

就職活動が本格的に始まる前にということから看護学部は4年次の6月、リハビリテーション学部は4年次の8月に行う。社会福祉学部は、3年次の2月に行い、就職先が決まっていない4年次生の就職相談会もあわせて行う。

(2) 取組の実施体制

各学部の教員からなる就職部と就職支援全般に関わる専門部署である就職センターとで構成される就職支援協議会が中心となって取組を推進する。また、各学部独自の取組に関しては教授会附属の就職委員会で検討し、全学的な取組に関しては学長が主宰する大学部長会に諮り実施する。

(i) 地域で活躍する専門職の講演会、卒業生との懇談会、地域の保健医療福祉施設の採用担当者と本学教職員との情報交換会、求人説明会の学内開催

各学部の就職委員会で検討し就職センターと協力して行う。

(ii) 卒業生を対象としたホームカミングデー

ホームカミングデーは全学的な取組であることから就職部と就職センターとで構成される就職支援協議会でプランを企画立案し、大学部長会で決定、各学部教授会に報告され、全教職員が役割を分担する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

取組は大学の事業計画の一部や就職関係の年度ごとの重点課題として取り上げ、就職支援協議会にて計画し推進する。進捗状況や達成度の評価については、随時、就職支援協議会において確認し、大学部長会が中間評価と最終評価の2回を行う。また、自己点検・評価についても、「自己点検・評価に関する規程」に基づいて行う。

(2) 達成目標に対する達成度についての指標

就職希望者の就職内定率と最終的な就職率、国家試験合格率及び卒業年次生満足度調査の就職・進路に関する満足度指数を目標に対する達成度を判断する指標とする。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

(i) 地域で活躍する専門職の講演会

リハビリテーション学部理学療法学専攻は4年次生を対象に8月8日(土)に急性期から回復期、維持期、

外来診療の現場で活躍をしている3名の専門職者を招いて行った。言語聴覚学専攻は、3年次生を対象に2月6日(土)に3名の専門職者を招いて実施した。

(ii) 卒業生との懇談会

社会福祉学部は、12月5日(土)に「卒業生による福祉の仕事報告会」を行い、3年次生22名が参加した。精神障害領域、知的障害領域及び高齢者領域の専門職、福祉施設事務の仕事をしている計5名の卒業生から現在の仕事の内容、学生時代にどのようなことを学ぶべきか、何をしておくべきか等について話を聞いた。その後、具体的にいつごろから就職活動を始めたのか、採用試験は何施設ぐらい受けたのか、不採用だった時の気持ちの切り替えをどのようにしたのか等を質問し、疑問や不安に対してアドバイスを聞くことができた。



写真3 社会福祉学部卒業生による福祉の仕事報告会

リハビリテーション学部は、「地域で活躍する専門職の講演会」の講師の一部に卒業生を招いて「卒業生との懇談会」を兼ねて実施した。

看護学部は、3年次生を対象に3月8日(月)に小児、内科系、外科系・内科系、外科系、救命救急、ターミナル・緩和ケア、精神科系、産科系、地域の領域が異なる約40名の卒業生を招いて実施した。全体での卒業生の紹介の後、希望する領域ごとに小グループに分かれ、領域別看護の実際、病棟での日々の業務、職場で求められる能力等を聞き、専門職に対するイメージを深めた。一人の学生が一領域30分程度で2～3領域の卒業生から話を聞いた。

(iii) 地域の保健医療福祉施設の採用担当者と本学教職員との情報交換会

看護学部は、6月6日(土)と13日(土)の求人説明会と同日に「就職懇談会」を行った。学部・研究科の現況、学生への就職支援、学生の動向、学生の出身地と就職先との関係等について説明した。また、就職担当の教職員が個別説明の各病院等のブースへ行き、6日(土)は24病院、13日(土)は12病院の看護師、採用担当者との情報交換を行った。

リハビリテーション学部は、8月20日(木)求人説明会と同日に行った。開始前に28病院・施設41名の療法士、採用担当者全員が一堂に会し、学部長から学部・研究科の説明、学生の就職希望等の説明をした。個別

相談会では理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚学専攻の各専攻長、就職担当の教職員が途中各ブースを回り、情報交換を行った。

社会福祉学部は、2月6日(土)に実施した。本学卒業生の就職が多い18の福祉施設を招き、学部・研究科の現況を説明し、学部への理解を深めてもらい、採用の動向、福祉専門職の養成について意見交換をした。

また、卒業生の就職先、学生の内定先、県内の保健医療福祉施設を訪問し、卒業生の動向や採用者側からの本学に対する要望を聞いた。

(iv) 卒業生を対象としたホームカミングデー

11月21日(土)にホームカミングデーを実施した。9,000名を越える卒業生に、ホームカミングデーは仕事や研究・研修の拠り所として、また保健医療福祉の最新情報や人材情報の交換拠点として母校を活用し、母校の現在を知る機会や同窓生、先輩・後輩と旧交を温め教職員と交流する機会として欲しいとの案内をし、卒業生、退職・現任教職員、学生を含め320名が参加した。プログラムはランチパーティによる懇親会、講演会、分野別交流会のほか、再就職相談、大学院へのリカレント相談等であった。

講演会は保健医療福祉の専門職連携を目的に高齢者総合ケアセンターこぶし園園長 小山剛氏が「住み慣れた地域で暮らし続けるために～連続的なケアシステムの構築と住環境の整備～」をテーマに講演した。



写真4 ランチパーティ



写真5 講演会

分野別交流会は、看護、社会福祉、リハビリテーションの3つの領域ごとにテーマを設け行った。看護学部では、「今、求められている看護とは ～訪問看護を知ろう～」をテーマに本学卒業生の上野桂子氏が講演をし、その後情報交換を行い、地域看護のありようを考えた。



写真6 看護学部分野別交流会

社会福祉学部は、高齢者、身体障害、知的障害、精神障害、児童、その他の6つの領域に分かれ、社会福祉学部及びその前身である介護福祉専門学校、福祉医療ヘルパー学園の卒業生同士が集い、交流や情報交換

を行い、福祉現場等の中で抱える悩み等を共有化し、解決に向けて話し合った。

リハビリテーション学部は、「回復期リハビリテーション」の講演後、専攻別症例検討会や勉強会を行い、日頃の研究の成果を報告、また疑問や悩みを解消する機会にした。

(v) 求人説明会の学内開催

看護学部は、6月6日(土)と13日(土)に「学内病院説明会」を行った。6日(土)は、24病院81名、13日(土)は、12病院92名の看護師、採用担当者が参加した。参加した看護師の約4割が本学の卒業生である。全体会では各病院の紹介をし、その後に個別相談会を行った。学生は、4年次生を中心に約130名が出席した。



写真7 個別相談会



写真8 全体説明会

リハビリテーション学部は、8月20日(木)に「学内病院説明会」を行った。28病院・施設の療法士、採用担当者が参加した。全体会では各病院・施設を紹介し、その後個別相談会を行った。学生は、4年次生を中心に約70名が出席した。

社会福祉学部は、3年次生を対象に2月6日(土)に18施設の採用担当者を招いて「学内就職相談会」を実施した。

(vi) その他

卒業生情報管理システムの構築により、卒業生の情報が一元管理でき、ホームカミングデーや公開講座等の行事の案内等大学からの情報発信に活用している。

卒業生動向調査を計画し、12月初旬に郵送で依頼した。卒業生の現在の勤務先・役職等を把握し、就業者数、定着率等の分析を行う際の基礎データとして活用する。また、卒業生の本学に対する要望を汲み取り、対応を図ることにより卒業生の専門職としての知識、技術のブラッシュアップにつなげていく。

就職センターホームページの活用により進路先情報や卒業生インタビュー等学生の就職活動に必要な就職関連の情報を随時提供できるようになり、学生の就職活動支援の充実につながる。

(2) 財政支援期間終了後の展開

年度ごとに取組の評価と課題の抽出を行い、次年度以降の実施計画に反映させ、より良いキャリア形成支援を行う。そして、保健医療福祉の専門職としての確実な就職と中長期的に安定した就職実績を確保できるよう財政支援期間終了後も継続して取り組んでいく。